

令和8年度第1回読谷村総合教育会議 議事録要旨

1 開催概要

- ・ 日時: 令和8年5月 29 日(金) 15:00～16:03
 - ・ 場所: 読谷村役場3階庁議室
 - ・ 出席: 村長、教育長、教育委員、教育委員会事務局、学校指導課、生涯学習課、文化振興課、企画政策課
 - ・ 協議事項:
「児童生徒の教育環境づくり及び地域と連携した支援の在り方について」
-

2 協議内容

(1) 現状と課題の共有

- ・ 教育長と各自治会長との意見交換会の結果を共有。
- ・ 読谷中学校区において、一部生徒による深夜徘徊、公民館周辺でのたまり場形成、暴力行為等が懸念されている状況が報告された。
- ・ 問題行動は特定地域だけの課題ではなく、SNS 等を通じて校区を越えてつながっていることから、村全体で対応すべき課題であるとの認識が示された。
- ・ 学校では別室指導や相談員の活用など、生徒の居場所づくりに取り組んでいることが報告された。

(2) 地域と連携した支援の必要性

- ・ 学校や教育委員会だけでは対応が困難であり、家庭・地域・行政が連携した支援体制の構築が必要との意見が出された。
- ・ 公民館を地域住民が安心して利用できる場所とするため、利用ルールの見直しや青少年健全育成協議会(青少協)による巡視活動の強化が提案された。
- ・ 「地域の子は地域で育てる」という読谷村の伝統を再確認し、地域全体で子どもたちを見守る体制づくりの重要性が共有された。

(3) 自治会活動等の好事例の共有

- ・ 自治会による子どもの見守り活動や公民館を活用した居場所づくりなど、地域ごとの優れた取組が紹介された。
- ・ 他自治会へ好事例を共有し、横展開を図ることが有効であるとの意見が出された。
- ・ 地域で顔見知りの関係を築くことが、子どもの健全育成や問題行動の未然防止につながるとの意見があった。

(4) 予防的な取組の重要性

- ・ 問題行動への対応だけでなく、「問題行動を起こさない子どもを育てる」視点が重要との意見が出された。
- ・ 保護者支援や子育て相談体制の充実、地域とのつながりづくりの必要性が指摘された。
- ・ 幼少期から地域の大人が積極的に声掛けを行い、子どもとの関係性を築くことの重要性が確認された。

(5) 具体的な提案

- ・ 青パト巡回について、自治会から情報提供を受け重点箇所を巡回する仕組みづくりが提案された。
 - ・ 地域人材や経験者を活用した子どもの居場所づくりや交流活動の推進が提案された。
 - ・ 古堅中学校で実施しているボランティアカード制度について、地域活動への参加促進につながる取組として紹介された。
 - ・ 学校時間外の相談・苦情対応について、専門窓口の設置など新たな対応方法の検討が提案された。
-

3 まとめ

- ・ 子どもを取り巻く課題は学校だけで解決できるものではなく、地域・家庭・行政がそれぞれの役割を果たしながら連携して取り組む必要があることを確認した。
- ・ 自治会との意見交換で得られた課題や好事例を共有しながら、今後の施策や地域活動に反映していくこととした。

- 村長からは、本会議で出された意見を今後の村政運営や教育行政に生かしていく考えが示された。